

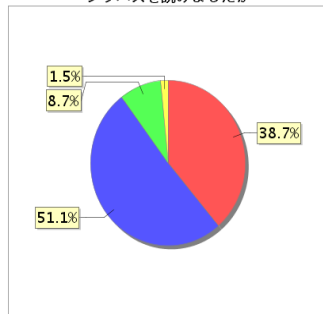
前期授業評価 『学生から教員の方々へ』

令和3年度前期の学生による授業評価を全学科で実施しました。結果のまとめを以下に示します。

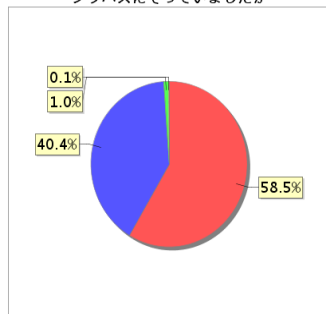
□ 講義系授業の結果

● しっかりできた ● だいたいできた ● あまりできなかった ● 全くできなかった

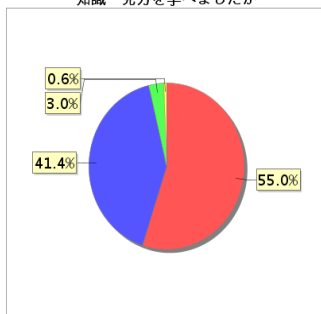
シラバスを読みましたか



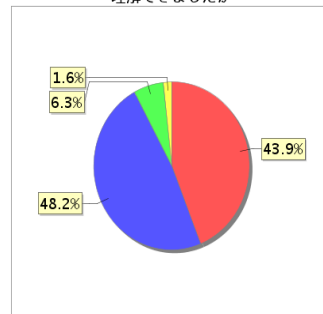
シラバスにそっていましたか



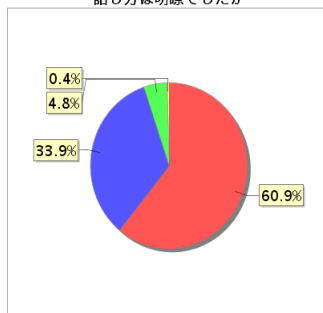
知識・見方を学べましたか



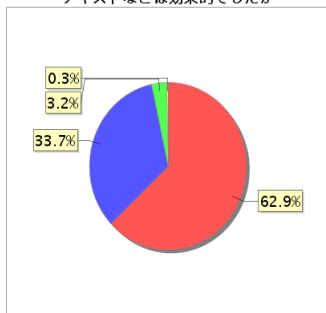
理解できましたか



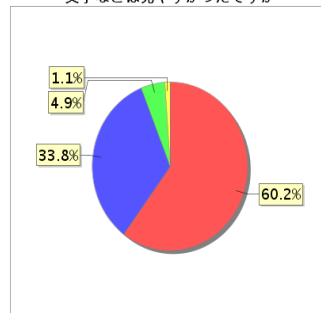
話し方は明瞭でしたか



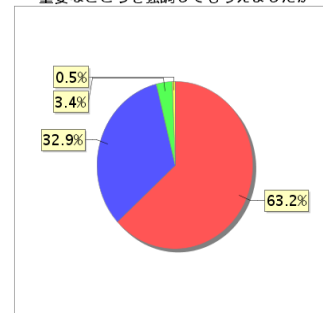
テキストなどは効果的でしたか



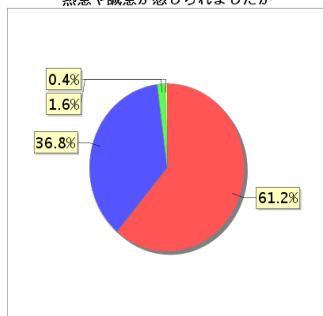
文字などは見やすかったですか



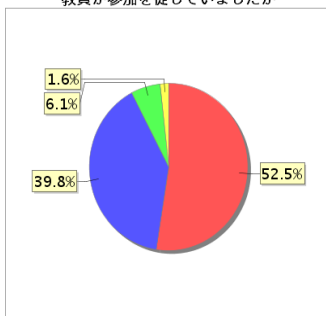
重要などを強調してもらえましたか



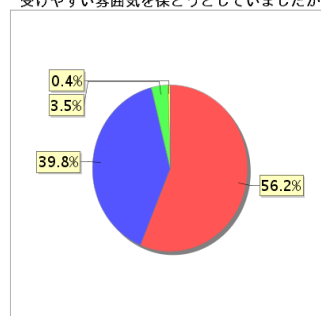
熱意や誠意が感じられましたか



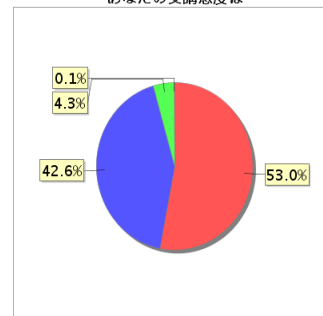
教員が参加を促していましたか



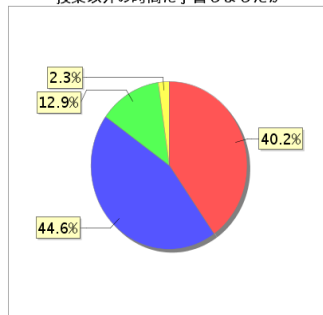
受けやすい雰囲気を保とうとしていましたか



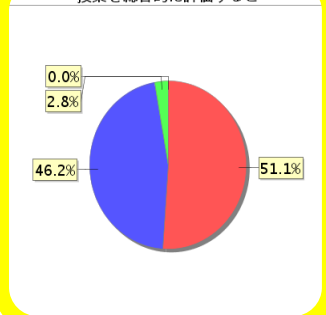
あなたの受講態度は



授業以外の時間に学習しましたか



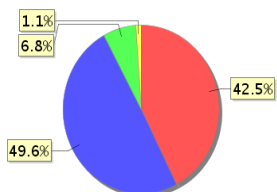
授業を総合的に評価すると



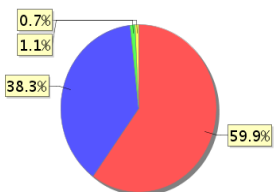
□ 実技系授業の結果

● しっかりできた ● だいたいできた ● あまりできなかった ● 全くできなかった

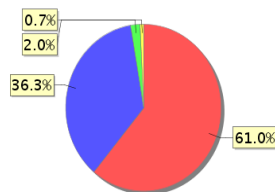
シラバスを読みましたか



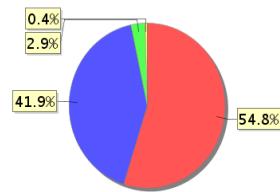
シラバスにそっていましたか



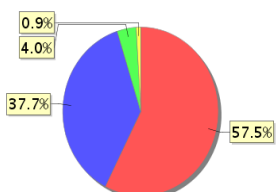
知識・見方を学べましたか



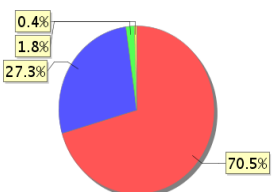
専門知識・技能を得られましたか



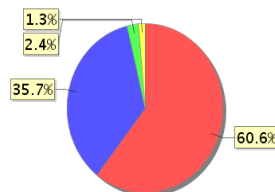
理解度・進度をよく見ていましたか



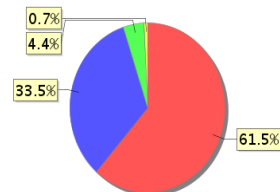
話し方は明瞭でしたか



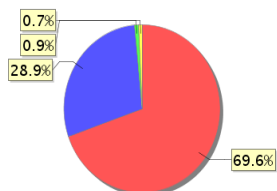
テキストなどは効果的でしたか



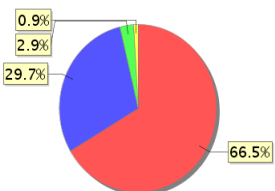
指導が充分受けられましたか



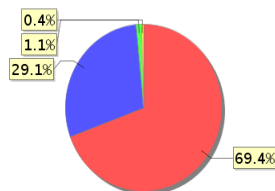
公平に対応していましたか



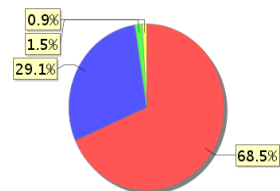
重要なところを強調してもらえましたか



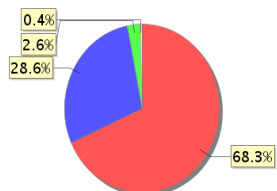
熱意や誠意を感じられましたか



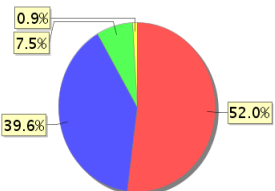
受けやすい雰囲気を保とうとしていましたか



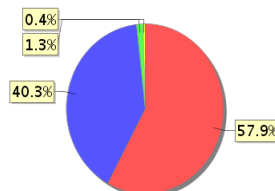
あなたの受講態度は



授業以外の時間に学習しましたか



授業を総合的に評価すると



<今回の結果からわかること>

1. 総合的評価

総合的評価について、“とても良い”または“だいたい良い”と回答した人は、講義系 97.4 %、実技系 98.2%となっており、昨年度後期の講義系 95.9%、実技系 96.6%に比べて高く、大変多くの授業が学生によって肯定的な評価を得ています。

2. 学生の自己評価

「受講態度」については、“しっかりできた”“だいたいできた”と回答した人は講義系で 95.6%、実技系で 96.9%と、多くの人が肯定的に評価しました。学修成果の指標である「知識・見方」「専門的知識・技能」についても講義系で 96.4%、実技系で 96.7~97.3%の人が肯定的に評価しており、ほとんどの人が新しい知識や技能の習得を実感していました。講義系の「理解」を見ると、92.1%の人は授業内容を概ね理解できています。

講義系の“授業以外の学修”については、他の項目に比べて達成度が低く、従来からの課題です。「授業時間外の予習や復習が出来なかった」学生の割合は、昨年度後期の 20.6%に比べて、今年度前期は 15.2%と減少していますが、授業時間外の学修の定着に向けた教員からのさらなる働きかけが重要であると思われます。「シラバスを読んだ」学生についても以前には課題となっていたが、ここ数年で改善しており、講義系で 89.8% (昨年度後期 84.6%)、実技系で 92.1% (昨年度後期 85.4%) となっています。授業を受ける前に授業目標や到達指標、授業内容を把握して取り組むことや、小テストの実施やレポートの提出などを踏まえ、学修計画を立てて取り組むことは、学修成果の向上にもつながります。

3. 教員に対する評価

講義系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「文字の見やすさ」「重要なところの強調」という教授方法に関する項目に対する肯定的な評価は 94.0~96.6%で、昨年度後期の 92.5~96.1%と比較すると高くなっており、学生にとって満足度の高い授業であったと思われます。実技系の教員の「話し方」「テキストの効果的使用」「十分な指導」「公平な対応」「重要なところの強調」も 95.0~98.5%と、昨年度後期の 94.1~96.8%と比べて高評価を得ています。

教員の「熱意や誠意」「参加の促し」「受けやすい雰囲気」等の学生への働きかけについても、講義系で 92.3~98.0% (昨年度後期 91.0~97.7%)、実技系で 97.6~98.5% (昨年度後期 96.8~96.9%) と多くの学生から肯定的評価を得ていました。今回授業評価の対象となった科目は、これまでと同じく各学科の常勤・非常勤の教員の担当によるもので、これらの授業の受講学生の約 9 割以上から肯定的な評価が得られたことは、本学教員による教育の質の全体的な高さを示すものです。本年度前期もこれまで以上に教員が熱意をもち、学生にとって満足度の高い授業を実施してきたということが以上の結果に示されています。

前期授業評価『教員から学生の皆さんへ』

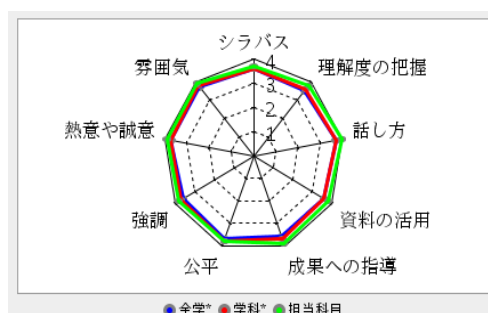
令和3年度前期の学生による授業評価に対して、教員から学生の皆さんへの回答をまとめました。

【 幼児教育学科 】

◆ 器楽と音楽表現

1. 授業評価の結果に対するコメント

今回は選択科目でのアンケートを取りました。とても良い評価をいただくことができ嬉しく思います。私自身も楽しく授業ができました。皆さんも協力的な姿勢で受講して下さいありがとうございました。受講者のみなさんの進捗具合を見ながら授業を進めていたため、若干のシラバス変更をすることになりました。今後は、学習の見通しが持てる授業展開を心がけていきたいです。



2. 今後の授業における目標

この授業に関しては、資格必須としてのスキルアップの内容であると同時に、意欲的に受講した方へのスキルアップをしていく内容になります。受講者一人一人の進捗を把握しながら、適切な指導を行い、実践力が身につく授業を行っていききたいです。

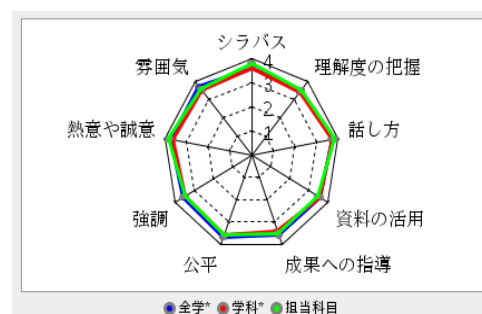
3. 受講学生に対する要望

課題に取り組みことで少しずつスキルアップをすることができます。努力を惜しまず、継続する力も大切にしていきましょう。

◆ 体育 I

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業に対する学生の理解度の把握、資料の活用、重要な点の強調、成果への指導が「3.5」の評価を受けました。学生のみなさんの理解度を確認しつつ授業が進められていなかった、理解が進む資料が活用できていなかった、授業において重要な点が明確でなかった、学生の頑張った点への指導が十分でなかったとの指摘と理解しています。



一方、シラバス（授業計画）、教員の話し方、熱意や誠意は、「3.8」の評価をいただきました。学生からのコメントでは、体育を通じてクラス内の仲間づくりができたことや、体育の学修内容が、将来の保育現場で役立てられるものだったなどがありました。今後は、学生同士のコミュニケーションを大切にしつつ、より一層、毎時間の授業での重要な点を明確に分かりやすい授業を心がけ、学生の将来に役立つ授業づくりをする必要があると考えています。

2. 今後の授業における目標

体育Ⅰの授業では、今後もスポーツやレクリエーションを通して、健康づくりに大切な要素を身につけることを目指します。体の健康として、身体の調整力、柔軟性、筋力の持久性の大切さを学び、日常生活において活用できる運動について提案していきます。また、心の健康として、仲間づくりとしてのコミュニケーション能力を高めることを目指し、ストレスケアを意識した生活習慣の獲得を目指します。また、学生からレポート等のまとめを授業内でフィードバックし成果と課題を伝えるなどの工夫にも取り組んでいきます。

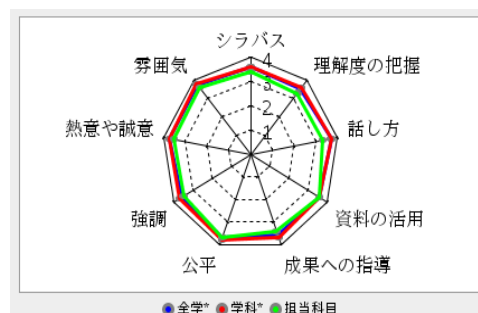
3. 受講学生に対する要望

毎回の授業に意欲的に参加している学生が多く、教員としてうれしくまたありがたく思っております。この授業で学んだ生活習慣における運動の役割の重要性を忘れることなく、普段の生活において適切な運動力の確保につなげてほしいと思います。また、保育者を目指す学生ですから、子どもたちとめいっぱい遊べる体力とゲームや遊びの技能を身につけてください。

◆ 造形・基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

アンケートに様々なご意見ありがとうございます。
学ぶとともに楽しんで作ることが伝わっているようです。久しぶりに美術の授業を受けるという方もいた中、プリントや動画などを使った説明をしっかりと受け取っているようで安心しています。また、制作時間がもう少し欲しいという希望もあり今後の授業展開に反映したいと思っています。



2. 今後の授業における目標

引き続き楽しい制作を目指していきたいと思っています。説明の部分をゆっくり簡潔にし、制作時間を程よく長めにし全員でよい環境と雰囲気を作っていきます。また、作品のフィードバックとしての鑑賞の時間なども増やしていこうと思っています。

3. 受講学生に対する要望

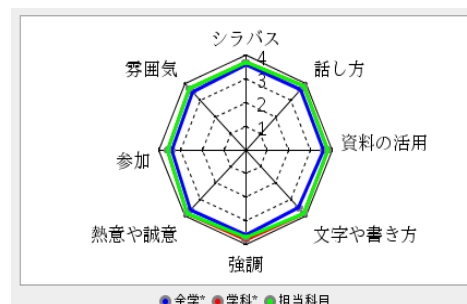
制作は道具がないと始められません。忘れ物がないよう努めてください。また、簡潔な説明と程よく長めの制作時間を取るため、説明の時間は集中して講義を聞くよう努めてください。最後に自由に表現することを楽しんでください。

【 音楽総合学科 】

◆ 音楽療法入門

1. 授業評価の結果に対するコメント

リモートを交えながら行った授業もあり、受講する側にとっては大変な面もあったと思うがおおむね良かったという評価であった。特に動画を積極的に活用したことや、穴埋めのプリントを用いて重要箇所を強調したところが評価されていた。スピーカーの音が大きすぎる、エアコンの温度調整（暑かった、寒かった）などの意見があった。また、席の後ろで私語がある学生に注意してほしいという意見もあったため、今後の検討課題としたい。



2. 今後の授業における目標

授業内容については評価を得ていたのでこの方向でさらに改良してゆきたい。その他、指摘を受けた授業を受ける環境（音量、室温）については、気軽にその場で申し出られるような雰囲気づくりを心掛けたい。

3. 受講学生に対する要望

学生自身も授業に臨むにあたり、静粛な雰囲気を作るために協力してもらいたい。

【 デザイン美術学科 】

◆ キャラクター入門

1. 授業評価の結果に対するコメント

自己の取り組みに対する評価、教員の取り組みに対する評価ともに、おおむね良好な結果を得たように感じる。自由記述においても、独学では学べないようなことを学べた、教え方が丁寧、個別のアドバイスが良かったなど、自分の納得のいくキャラクターが作れたなど、良いコメントを得られた。



2. 今後の授業における目標

マンガにおけるキャラクターづくりの重要性を知らせることはできたと思うが、全体的には、まだまだ深いところまでは理解できていないように感じる。この授業単体での話ではなく、マンガ、イラスト関連の諸々の授業で、キャラクターがストーリーと、どう絡み合うのかを実感として捉えられるところまで持っていき、ストーリーマンガを作るということを俯瞰的に見られるようにしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

絵を描くことは、みんなが好きで、黙っていてもたくさん描いていると思うが、作品を見る人、読む人を意識した、客観性のある画面作り、物語づくりを心掛けてほしい。

◆ 絵画基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

今回は、課題の多い授業となりました。「授業で制作する作品の出品を予定していた美術展鑑賞の中止」「突然の一部学生遠隔授業と2教室対面授業の混合授業」「全学生登校となった際は、オンライン授業ができない3教室による同時対面授業」と今までにない授業形態となりました。この状況下でのあらゆる場面でビジョンの共有をする際、今までのコミュニケーション手法は思うように機能しませんでした。

いつもは導入授業として一緒に美術鑑賞をし、その鑑賞による感動体験を起点とした創作活動をはじめていました。そこでの感動体験をできるだけ共有して、学生が授業で描いてみたい世界観構築の指導をしていました。この様なコンセプトワーク指導において、学生のビジョンを育てる推進力として期待し活用していたことは、美術鑑賞で得られる知的好奇心です。学生自身が鑑賞から思い巡らした行為により得られた好奇心で、「テーマ」「演出」「技法」「素材」などにおいて、「私だったらこんな作品にしたい。」という気持ちを最大限にふくらまし、個々人の持つ特性を活かした豊かな表現へとつなげることが私の役割と考えています。

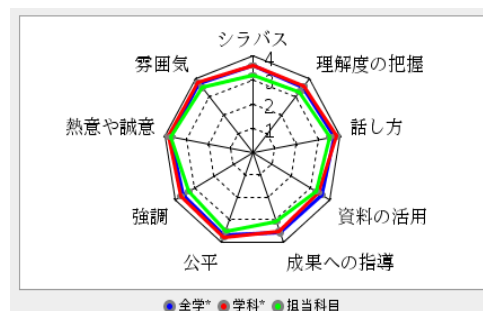
今回は、想定以上の出来事に最後まで惑わされた部分もありましたが、どんな状況においても目的を中心に置きながら、適正な目標値の設定、課題内容の吟味、学生の要望や心情理解などもっと工夫する余地があったと反省しております。そんな中で、学生のコメントとして、「こういう授業を受けるのは初めてで、右も左も分からない私に丁寧に描き方を教えてくださり、とても描きやすかったし楽しかった。」というご意見をいただいたことは、とても励みになりました。今後も、精進していきたいと思いました。

2. 今後の授業における目標

芸術の力を借りて、学生のモチベーションに「必然性」と「感動」で火をつけて、今後の社会で必要となるスキル『問題解決力』を、『暗黙知』の観点から育てていきたいです。知識からのみ学ぶのではなく、体の機能全体を活用して「人の琴線に触れる作品を創作する」授業にしたいです。

3. 受講学生に対する要望

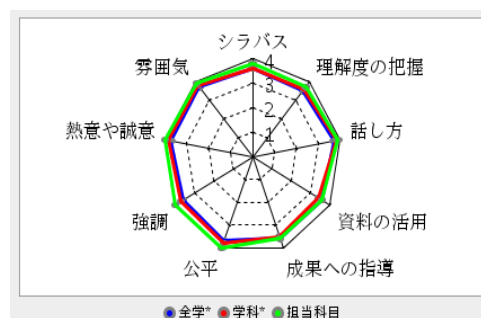
この授業では、こちらが事前に設けたガイドラインを超えてもらったり、こちらの用意した問題の穴をふさぐ数を増やす学習手法ではなく、自身で目標を立て、現状何が問題で要因はなんであるか、どの対策が効果的かを立案し実行する『問題解決学習』としたいです。理想を想像できるしなやかな感性を磨いてください。



◆ CGキャラクター基礎

1. 授業評価の結果に対するコメント

目標として「はじめてのCG、わかりやすく、自分でも作れる。」ことを挙げていましたが、学生記述欄には「パソコンに慣れていない人にも分かりやすく」「作れるのだと自信が湧きました」とあり、学生記述欄の多くの回答により、目標の実現を実感しました。



2. 今後の授業における目標

わからないところについて、積極的にネット検索をしたり書物で調べたりする習慣づくりに加え、学生同士で互いに教え合う機会を設けたい。

「教えるときは、理解度の確認となり」「教わるときは、学びたての親近感を感じる」

例えば、数名が同じ問題で止まった際に、解決のヒントを学生から学生へ伝えることを勧めたい。

3. 受講学生に対する要望

「自分でも作れる」実感。その次は「CGで好きなキャラクターを作ってみる」

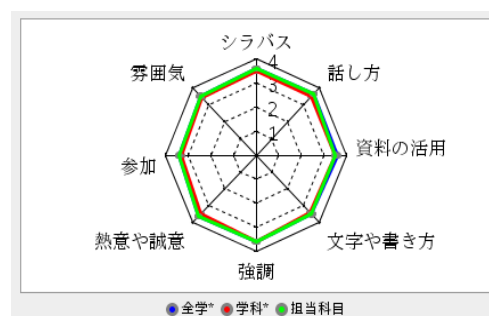
ぜひ放課後、作り続けてみてください。その日常が、その思いが、ゲーム会社・アニメ会社の、扉を開きます。

【 歯科衛生学科 】

◆ 口腔外科学

1. 授業評価の結果に対するコメント

歯科臨床科目である口腔外科は日常の歯科医院ならびに病院歯科での実践科目です。高頻度に遭遇する疾病、現場に則した講義を心がけています。可能な限り口腔内の画像・動画を示し、耳だけでなく目に訴える授業を行った結果、全学ならびに歯科衛生学科の平均とほぼ同等の評価を頂いたと感じております。



2. 今後の授業における目標

特に「参加」の点数が低いことを念頭に置き、さらなる歯科医院・口腔外科の現場の臨場感が伝わる講義を心がける所存です。教科書による知識の詰め込みだけではなく、患者さんがここにいることを想定しながらの授業を心がけます。また歯科衛生士の目線の講義に加えて、患者目線、歯科医師目線についても教えていきたいと考えております。

3. 受講学生に対する要望

学生も与えられる講義を待つのではなく、自ら学ぶ姿勢を養い、学生・教員ともに成長していくよう努力することを期待しています。

◆ 歯科矯正学

1. 授業評価の結果に対するコメント

専門性の高い内容であるにもかかわらず授業内容や配布資料がわかりやすいという評価がいただけた。授業に際し、

1) 重要事項を明快に示した理解しやすく勉強に取り組みやすい配布資料を心がけた。また、学習内容の理解と興味を促すため、カラーの図や写真も多く取り入れるようにした。

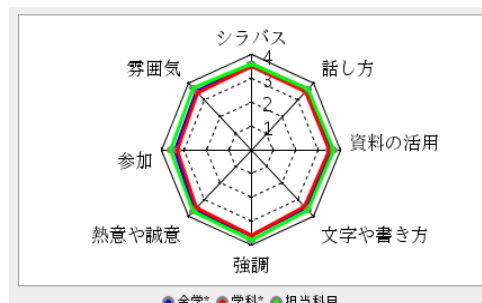
2) 情報を整理して提供する。特に、要約を重視し、何を知ればわかったことになるのかを意識させるようにする。

3) 国家試験対策を授業に取り入れる。

4) 授業の度に重要事項の復習をし、繰り返しの習慣化を目指す。

5) 「褒めて育てる」の精神で励ましの言葉がけなどを行い、学生のやる気を促すようにした。

ということを心がけた。



2. 今後の授業における目標

自己の取り組みに対する評価、および教員の取り組みに対する評価のいずれにおいても全ての項目について全学平均を上回る評価がいただけた。特に、教員に対する評価のうち、「資料の活用」、「強調の項目」、「熱意や誠意」、「雰囲気」について、高評価をいただけたことは、前述した自分の授業に対する意図が学生に伝わった結果だと思われる。今後はさらに、自分の取り組みをブラッシュアップしてよりよい授業を心がけたい。

3. 受講学生に対する要望

1) 私語、居眠りをせず、真面目に授業に取り組む。

2) 習った内容をできるだけ早い時期（できれば1日後）に目を通す。

3) キーワードや重要事項を覚える。それによって、その科目を理解し攻略していく上での柱を作る。配布資料では太字や赤でなどで協調しているので、よく目を通すこと。

4) 勉強する上での最強の方法は「要約」です。「要約」とは、「わかりやすく、かつ少ない文字数でまとめる」ということ。要約をすれば、「いったい何を理解すれば、その話がわかったことになるのか（これを「本質」と言う）」がわかる。学ぶべきことについて、「一言でいうとどういうことなのか」を意識して勉強すると良いです。

5) 覚えるべき内容について、「なぜこうなるのか」を理解すると、記憶が効率的になる。しかも記憶が長持ちする。知識と知識を「なぜ」で結びつけて覚えるようにしましょう。

◆ 病理学

1. 授業評価の結果に対するコメント

医療系従事者養成校において「病理学」は難解な科目の一つとして挙げられるが、今回総合評価として4点満点中3.5点であったということで、提供した講義全体としては大きな問題はなかったと判断している。個別評価においては、自己の取り組みの「理解」と教員の取り組みの「話し方」の2項目について

他の項目に比べてスコアが若干伸びなかった。「理解」については、初めて「疾患（病気）」というものを学ぶということで、慣れない医療系の言葉を理解し覚えていく大変さに苦労した様子が窺える。そのため今後は「話し方」において、より学生の理解を確認しながらハッキリと話す様にし、また板書においても教室のどこからでも見えるよう字を大きめに書くよう努め、学生の理解向上に取り組む。



2. 今後の授業における目標

医療従事者として必要な全身的な病理・病態の解説と、歯科衛生士として必要な口腔領域の病理・病態の解説を行うため時間的に非常にタイトではあったが、要点を伝達できた。今後はさらに配布資料を見やすく、そして伝達内容を分かりやすい言葉で置き換えるなど工夫をすることで学生の理解向上に繋げる。

3. 受講学生に対する要望

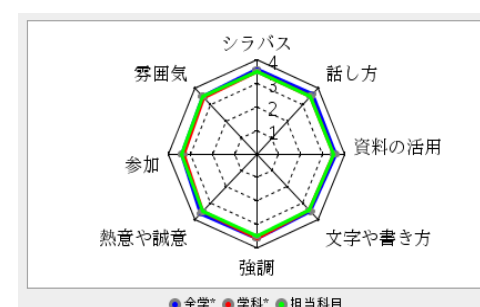
人体は小宇宙と言われることもある様に、口腔を含めた人体の理解のためには非常に多くの知識が必要である。そして医療従事者は疾患の理解が必須であり、そのためには解剖学・生理学・生化学などの基礎知識を確実に身につけておく必要があり、そのうえで本科目内容の習得に努めて欲しい。

◆ 発達口腔保健演習

1. 授業評価の結果に対するコメント

対象履修者数 53 人中、48 人から回答を得られました。その結果、学生の自己の取組では、シラバス、学ぶ、は学科平均とほぼ同値で、理解、態度、授業外は学科平均より 0.1 ポイント高いという結果でした。教員の取組に関する評価は、学科平均とほぼ同値ですが「強調」が 0.1 ポイント低く、参加、雰囲気が 0.1 ポイ

ント学科平均より高い結果とでした。今回、自由記述がなく具体的な意見がきけなくてとても残念です。学生の理解度を深めるためポイントがやや低い「強調」など改善点を常に意識し授業を進めたいです。



2. 今後の授業における目標

これまでも学生の表情や態度をみて授業を進めていましたが、さらに学生全員が授業中1人も取り残されないように学生の受講態度をよく把握するように努めたいです。今年度は、コロナ感染者数拡大により、オンライン授業を数回実施しました。対面授業とは異なる利点や問題点もあり、今後はその点も

考えながら授業計画を立案する必要がある出てくると感じます。予習は、現在の学習状況から実施するのはやや困難であるため、小テストや配布されたプリントの熟読と復習がしっかりとできるように授業の配布資料内容の充実を図っていきます。

3. 受講学生に対する要望

歯科衛生学科は、実技系科目が多く出来る限り欠席しないようにして欲しいです。そのためには、自己の健康管理に留意し、課題や復習をしっかりと行うことが大切です。疑問に思うこと、不明な語彙は自ら調べる努力をしましょう。特に復習をしっかりと行い、理解が深まると学ぶ意欲が湧いてくると思います。

◆ 口腔健康支援法

1. 授業評価の結果に対するコメント

理論や概念を理解し「自ら考える」ことが求められる科目であったため、学生には難しく感じられたと思う。しかし、歯科衛生士として業務に従事する上で「自ら考える」ことは必要なことであるため、今後は、より分かりやすい授業を展開していきたいと思う。



2. 今後の授業における目標

理論や概念を理解するという難しい科目であったため「理解」に関する評価が低かった。今後の授業では、演習に取り組む前にもう少し時間をかけて理論や概念を説明し、科目への理解を深めていけるよう努めたいと思う。

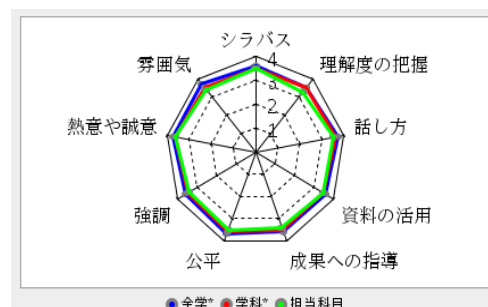
3. 受講学生に対する要望

授業以外での学習時間（教科書を読むこと等）を確保した上で、課題に取り組んでほしいと思う。

◆ 診療補助基礎 I

1. 授業評価の結果に対するコメント

評価として、「理解度の把握」が特に低い結果になった。途中からコロナ禍中、オンライン授業を入れながらの実習になったことで、対面授業では、1回の実習で行う内容が多くなり、時間に余裕がなくなり、内容が理解できないところも出てきてしまった結果になったと思われる。特に1年生の前期では、まだ実習に慣れていないこともあるため、このことを踏まえて、改善していきたい。



2. 今後の授業における目標

1年生の前期の2コマ続きの実習に学生は慣れていないことから、話し方のペースをゆっくり丁寧に説明しながら、時間に余裕を持たせた実習ができるように時間配分を考え直していきいた。実技では、1つ1つの動作を確認しながら進行していけるようにしていきたい。

3. 受講学生に対する要望

今回、オンライン授業もあって、実技の動画を作製しました。何度も繰り返してみることで、実際に自分自身の実技の練習に活用して、技術を身につけていって下さい。また、分からないところがあれば時間外に質問することで、学習意欲を高めて下さい。

【 総合教育センター 】

◆ 発達心理学

1. 授業評価の結果に対するコメント

総合評価、教員の取組に対する各評価項目ともに学科平均や全学平均を上回る結果が得られたことから、一定レベル以上の授業ができたことが確認できた。また、学生自身の取組に対する評価も同様であり、受講学生にとっても授業時間内外での取り組みや内容の理解が十分に行えたことが示された。毎回の授業で学生の意見や質問・要望を聴取し、それに応える形でより身近な内容を分かり易く伝えられるよう教材や授業方法を工夫したことが、このような結果に繋がったものと思われる。

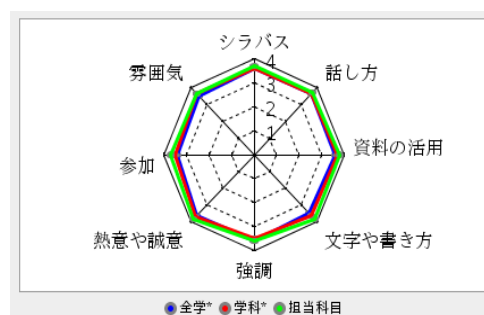
具体的なコメントには「楽しかった」「分かりやすかった」という言葉が多く、また、視野の広がりや思考の深まりも多く挙げられていたことから、学生達が自身の生涯発達のプロセスを辿る過程にも役立つ知識を身に付ける機会を与えることができたようだ。改善点として挙げられていた2点（教材内での色の使用、レポート文字数の多さ）については、後期の授業に向けて再検討し改善した。今後も学生の声に耳を傾けながら、興味深い授業を共に作っていきたい。

2. 今後の授業における目標

発達心理学は専門分野においても学生自身の人生においても関連の深い科目である。授業を受講し終えた後にも折に触れてふと思い出すことができるよう、身近で実践的な内容や教材を提示し、教科書や資料を見なくても学生の中で今後生き続ける知識を根付かせたい。そのために、内容がしっかりと理解でき、「面白い」「不思議だ」などと感情が動くような授業を行えるよう、工夫を続けていく。

3. 受講学生に対する要望

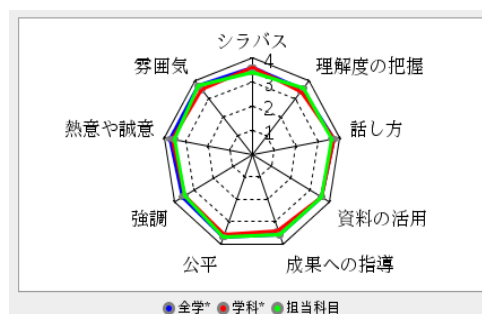
Slido やミニッツペーパーを活用し、授業内での意見交流や授業後の感想などをしっかり書いて下さい。書くことによって自分の考えや気持ちが意識されて新たな思考を生み出し、それが他者との交流にも広がります。授業を聴いてあなたが受け取ったものを、文字にして外に伝える力をつけてほしいです。



◆ 情報科学

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業評価の協力ありがとうございます。テキストに沿って、情報セキュリティの学修及びの文書作成、表計算、プレゼンテーションの各ソフトウェアを活用にしての基礎的なスキルアップを目標とした演習中心の授業でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、シラバスを若干変更する形で講義をすすめることになりました。講義の内容については、質問に対して適宜対応してきたわけですが、学生の皆さんからのコメントでは、まだまだ説明不足のところがあったように思われます。今後の課題としたいと思います。



2. 今後の授業における目標

Google Classroom の様々な機能を活かして、授業の充実をめざします。情報セキュリティの学修については、引き続き最新の事例を紹介しながら、意識の高揚を図っていく予定です。また、演習を通して一人一人のスキルアップを目指すとともに、個別に対応した支援の充実を図っていきます。わからない点は仲間に尋ねたり積極的に質問したりして解決していきましょう。

3. 受講学生に対する要望

テキストや USB 等の忘れ物があると、演習に遅れが生じるので、準備を怠らないようにお願いします。

◆ 外国語コミュニケーション I

1. 授業評価の結果に対するコメント

○学生の受講態度から考え、総合評価が思ったより低い点を反省している。

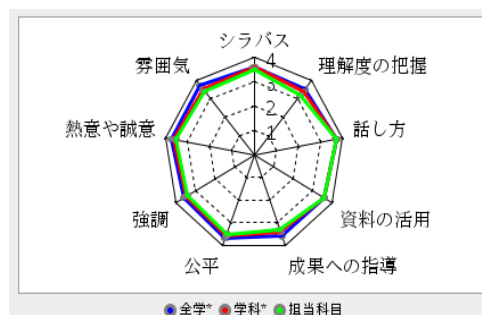
○特に、自己の取り組みに対する評価が総合評価と同様 3.2 と低い。

○教員の取り組みに対する評価は 3.5 となっており、総合評価の原因は主に自己評価の低さに起因すると考えられる。

○記述回答をみると、復習テストの内容が生徒の実態と合わず、どうやって勉強したらよいかかわからないという疑問や、良い点数が取れないという不満感により、学生の授業に対する満足感が著しく低下したのではないかと考えられる。

○スライドの切り替えや音読の速度についても不満を感じる学生がいることが分かったため、学生の様子をより観察する必要性を感じた。

○また2名の生徒から、マスクを外したことについて指摘があった点については、息苦しさから、1～2回音読の際に、相当な距離を置いてほんの数秒だということで大丈夫だとの認識から行ったが、



気にする学生がいることがわかったため、今後は慎みたい。

2. 今後の授業における目標

- もともと英語を苦手としている学生の苦手意識を克服し、英語を学習する楽しさを一人でも多く感じさせるような授業づくりを心掛けたい。
- 復習テストの改善。既製品の使用をやめ、学生の実態に合ったオリジナルテストを実施する。
- 学生の取り組み状況の確認。これまで以上に学生の取り組み状況を確認し、一人の学生も取り残さない指導を心掛ける。
- オンラインを活用し、復習テストに役立つ教材を毎回提供するとともに、毎回提出課題を実施し、家庭学習に取り組む姿勢を形成する。

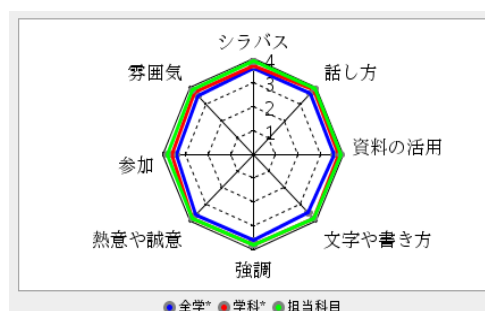
3. 受講学生に対する要望

- 特になし。

◆ 生活環境論

1. 授業評価の結果に対するコメント

すべての項目で、高い評価を得ることができました。自由記述では、これからの生活に必要で役に立つ内容であった、自分の生活習慣を見直すことができた、今後の生活に取り入れていきたいなどの感想があり、自身の生活と関連づけられたことにより主体的に深く学ぶことができたと思います。



2. 今後の授業における目標

健康で豊かな生活を送るために、生活における事象を多面的に理解し、自身の生活を振り返りながら、よりよい選択や実践ができるよう引き続き課題解決型学習を深めていきたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

日々変化している社会状況を理解し、課題意識をもって生活することにより学びはさらに深まります。

【 非常勤講師 】

◆ ヴォーカル I（音楽総合学科）

1. 授業評価の結果に対するコメント

授業の内容に対しては、声楽を通して他の楽器への繋がりを意識して勉強してくれていると感じましたが、集団授業での自



己発表に戸惑いをうけている学生の対応を検討していかななくてはいけないと思っています。

2. 今後の授業における目標

今後の課題としては、コロナ対策も含め、少人数グループでの発表や個人レッスンをさらに取り入れ、一人一人の課題の克服を目指したいと思います。

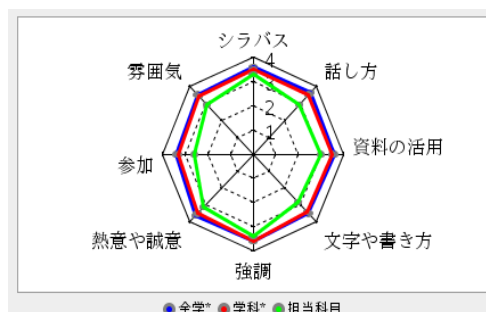
3. 受講学生に対する要望

非常に一生懸命取り組んでくれています。ヴォーカルという学科を通して音楽が身体表現や内面の表現に結びついているということを理解し、さらなる自己表現の場となることを願っています。恥ずかしがらないでください。

◆ 生理学（歯科衛生学科）

1. 授業評価の結果に対するコメント

生理学は医学系の専門資格を取得する際に、避けては通れない学問であります。しかしながら、1年生の入学して間もない時期から、専門分野に関する内容を聞いて大変だったと思います。そのため「自己の取組に対する評価」は全学、学科とも生理学ではどの項目も低評価でした。そんな中「教員の取組に対する評価」のなかで最も高かったのは「強調」でした。これは私自身もこれに気を付けて講義をしたため、結果がでたと思います。コロナ禍で一部の講義が遠隔授業であったこともあり、うまく講義が進めなかった点は反省し今後の講義に生かしていきたいと思います。



2. 今後の授業における目標

コメント欄に「ゆっくり授業を進めほしい」とありました。生理学は広く深く学ぶ必要があります。なるべく時間をかけてできる内容は進めていきたいです。また、「聞くだけ」「何かプリントに書き入れるものを」といったコメントもありました。次回はプリント配布だけでなく、重要な内容であればなおのこと、穴埋めのプリントにして渡せるようにしたいと思います。

3. 受講学生に対する要望

基本的に、私の講義スタイルはPPTを使います。ある程度は「この内容は特に重要」と言ったりスライド内で示したりしています。ところが大部分の学生は授業開始から間もなくして寝ています。これでは講義内容を聞き漏らします。生理学は歯科衛生士の第1歩となる重要な学問です。しっかり聞きましょう。

本学の教職員は これからも
学生のみなさんの学びをさらに深めるために
よりよい授業づくりへの努力を続けます





学生みなさん、授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。

本学では本年度も、多くの学生が積極的な姿勢で授業に参加し、多くの教員の授業が学生から高い評価を受けました。授業は教員が行うものですが、そこに学生の皆さんが居てこそ成り立つものです。学生にとってより良い授業を実現させるためには、教員による質の高い授業の実施、そして学生の真摯な取り組みと率直な声、それに応える形での教員の授業改善、という循環が不可欠です。毎年実施している学生による授業評価とその結果へのコメントをはじめとして、日ごろの授業の中でも教員と学生とで良好なコミュニケーションを行い、大垣女子短期大学の特色を生かした授業を学生・教員ともに力を合わせて作り上げていきましょう。



総合評価が高かった教員を対象に顕彰が行われています。

令和3年度前期は以下の授業の担当教員が顕彰の対象になりました。

「音楽療法入門」 「生活環境論」 「障がい児保育Ⅱ」